

令和 7 年 度
事 業 報 告 書
決 算 報 告 書

公益財団法人広島市農林水産振興センター

目次

第1 事業報告書

1	設立目的及び概況	1
2	役員等の状況	1
3	理事会等の開催	2
4	定款の変更	3
5	職員の状況	3
6	事業の実施状況	
(1)	農業の振興（公益目的事業1）	
ア	調査及び試験研究	4
イ	担い手の育成・支援	5
ウ	農業への理解の促進	8
(2)	林業の振興（公益目的事業2）	
ア	森林の保全・整備	12
イ	担い手の育成・支援	13
ウ	林業への理解の促進	14
(3)	水産業の振興（公益目的事業3）	
ア	調査及び試験研究	15
イ	担い手の育成・支援	17
ウ	水産業への理解の促進	20
(4)	収益事業	21
7	無償使用貸借資産	21
8	附属明細書	21

第2 決算報告書

(1)	貸借対照表	22
(2)	貸借対照表内訳表	23
(3)	正味財産増減計算書	24
(4)	正味財産増減計算書内訳表	25
(5)	財務諸表に対する注記	26
(6)	附属明細書	27
(7)	財産目録	28

第 1 事業報告書

令和 7 年度 公益財団法人広島市農林水産振興センター事業報告書 (令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで)

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

広島市における農林水産業等の振興を図るとともに、農山漁村地域の持つ公益的機能を活用した事業を推進し、もって活力ある農山漁村地域の確立と健康で豊かな市民生活の向上に寄与することを目的とする。

(2) 概況

ア 設立年月日

平成 4 年 4 月 1 日 財団法人広島市農業振興センターとして設立
平成 10 年 4 月 1 日 財団法人広島市林業振興公社と統合
平成 17 年 4 月 1 日 財団法人広島市水産振興協会と統合
平成 24 年 4 月 1 日 公益財団法人へ移行

イ 基本財産

設立当初、基本財産は 5,000 万円（全額広島市出資）であったが、平成 10 年 4 月 1 日の財団法人広島市林業振興公社との統合に伴い、同財団から 3,000 万円を寄附受領した。

また、平成 17 年 4 月 1 日の財団法人広島市水産振興協会との統合に伴い、広島市から 1,000 万円の追加出資があったことにより、現在の基本財産は 9,000 万円（うち広島市出資 6,000 万円）である。

ウ 実施事業

- (ア) 農林水産業の振興に関する指導及び普及啓発
- (イ) 農林水産業に関する調査及び試験研究
- (ウ) 水源涵養、緑地保全等公益的機能の活用に関する指導及び普及啓発
- (エ) 農山漁村地域の担い手の育成及び指導
- (オ) 農地利用集積円滑化に関する事業
- (カ) 水産資源の維持増殖に必要な重要魚介類等の種苗生産
- (キ) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況

(1) 役員等の数

理事長	1 人
常務理事	1 人
理事	7 人
監事	2 人
評議員	7 人

(2) 理事・監事

ア 事業年度中の理事・監事の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
令和 7 年 4 月 1 日	理事長	萬ヶ原 伸 二	就任
令和 7 年 4 月 1 日	常務理事	神 岡 正 浩	就任

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
令和 7年 4月 1日	理事	岩 崎 康 次	就任
令和 7年 4月 1日	監事	秋 信 隆 雄	就任

イ 令和8年3月31日現在の理事・監事は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就任年月日
理事長	萬ヶ原 伸 二	令和 7年 4月 1日
常務理事	神 岡 正 浩	令和 7年 4月 1日
理事	岩 崎 康 次	令和 7年 4月 1日
理事	佐名木 由美子	令和 6年 6月 3日
理事	鈴 木 修 治	平成24年 4月 1日
理事	福 田 卓 己	令和 6年 6月 3日
理事	矢 野 泉	令和 2年 6月18日
理事	米 田 輝 隆	令和 2年 6月18日
理事	和 田 秀 次	令和 6年 6月 3日
監事	秋 信 隆 雄	令和 7年 4月 1日
監事	井手下 文 子	平成24年 4月 1日

(3) 評 議 員

ア 事業年度中の評議員の異動はない。

イ 令和8年3月31日現在の評議員は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就任年月日
評議員	鍛治山 好 恵	令和 2年 6月18日
評議員	佐 藤 和 夫	令和 6年 6月 3日
評議員	島 本 啓 司	令和 6年 6月 3日
評議員	波 田 輝 明	平成28年 6月 3日
評議員	三 浦 隆 志	令和 2年 6月18日
評議員	山 崎 裕 実	令和 6年 6月 3日
評議員	山 中 幸 男	令和 2年 6月18日

3 理事会等の開催

(1) 理 事 会

開催年月日	開催回数	付議事項	審議結果
令和7年 4月 1日 (決議の省略)	令和7年第2回	1 理事長（代表理事）の選定について 2 常務理事の選定について	選定 選定

開催年月日	開催回数	付議事項	審議結果
令和7年 5月22日	令和7年第3回	1 令和6年度公益財団法人広島市農 林水産振興センター事業報告及び決 算について 2 定時評議員会の招集について 3 令和6年度における職員の職務に 係る倫理の保持に関する状況等につ いて「報告」 4 令和7年度における職務の執行状 況について「報告」	承認 原案可決 終了 終了
令和8年 3月26日	令和8年第1回	1 令和8年度公益財団法人広島市農 林水産振興センター事業計画及び収 支予算について 2 常勤役員の報酬等について 3 令和7年度における職務の執行状 況について「報告」	承認 承認 終了

(2) 評 議 員 会

開催年月日	開催回数	付議事項	審議結果
令和7年 4月 1日 (決議の省略)	令和7年第1回	1 理事の選任について 2 監事の選任について	選任 選任
令和7年 6月 6日	令和7年第2回	1 令和6年度公益財団法人広島市農 林水産振興センター事業報告につい て「報告」 2 令和6年度公益財団法人広島市農 林水産振興センター決算について	終了 承認

4 定 款 の 変 更

事業年度中の定款の変更はない。

5 職 員 の 状 況

令和8年3月31日現在の職員の状況は、次のとおりである。(単位：人)

区 分		事務職員					小 計	技術職員					小 計	業 務 員	非 常 勤 職 員	合 計
		部 長 級	課 長 級	補 佐 級	係 長 級	主 事		部 長 級	課 長 級	補 佐 級	係 長 級	技 師				
事務局			1			3	4	1					1			5
農 林 部	農業担い手 育成課					3	3	1	2	2	2	4	11		1	15
	農林振興課		1	1		6	8		2		2	3	7		5	20
水 産 部	普及指導課					1	1	1			2	1	4		2	7
	栽培漁業課					1	1		1		1	2	4	1	1	7
合 計			2	1		14	17	3	5	2	7	10	27	1	9	54

6 事業の実施状況

次の事業を実施した。

(1) 農業の振興（公益目的事業1） ＜決算額：184,315,058円＞

ア 調査及び試験研究 ＜決算額：32,773千円＞

栽培技術等に関する調査及び試験研究

農業経営における収益性の向上と農業生産の維持・増大を図るため、市内農家の経営改善に係る栽培技術等に関する調査及び試験研究を実施した。

(ア) 先進事例等の調査

栽培技術の蓄積を図るため、栽培技術等に関する県内外の先進事例等を調査した。

区 分	件 数	内 容
先進地事例調査	3件	1 メロン先進地事例調査（茨城県銚田市） 2 ニガウリ先進地事例調査（鹿児島県霧島市外） 3 イチゴによる新規就農者育成研修の事例調査 （岐阜県岐阜市 J A全農岐阜いちご新規就農者研修所外）

(イ) 野菜・花き等の栽培試験

先進事例等の調査や市場の動向等に基づき、認定農業者等や直売農家など幅広い経営体向けの野菜・花き等の栽培試験を実施した。

区 分	内 容
優良品種の選定等	オクラのハウス栽培による収量・品質等の調査 スイートコーンのハウス栽培による収量・品質等の調査
環境にやさしい栽培技術の効果検証	有機JAS対応農薬使用や太陽熱土壌処理技術等を用いたコマツナ栽培の収量・品質等の調査
栽培展示	トマト、キュウリ、コギク等 45品目
実証展示	ピーマンの一本仕立て栽培による収量・品質等の調査 キュウリのつるおろし栽培による収量・品質等の調査 ナスの露地栽培による収量・品質等の調査 スマート農業技術を活用したコマツナの生育期間・収量等の調査 葉物野菜における生産工程管理（J G A P）

(ウ) 土壌診断

農作物の生育障害の防止や資材費等のコスト低減を促進するため、農家は場等の定期的な土壌診断を実施した。

区 分	件 数	内 容
農家ほ場	885件	CEC、塩基飽和度など14項目の認定農業者等向け診断 pH、ECなど12項目の一般農家向け診断
センター試験ほ場	109件	試験研究用の14項目分析

(エ) 優良種苗の生産供給

生長点培養等の園芸バイオ技術を活用し、市内農家へ個性的な野菜や地域特産品種等の優良種苗を生産供給した。

品目	数量
サツマイモ	2,760本
スイゼンジナ	90本
ウルイ	30本
計	2,880本

(オ) 農業振興センターの維持管理

施設の機能を良好に保つため、施設内の清掃や警備、設備等の保守・点検等を実施した。

イ 担い手の育成・支援 <決算額：96,902千円>

(ア) 新たな担い手の育成 <決算額：87,747千円>

農業従事者の減少と高齢化が進展する中、新たな担い手を確保し、新鮮で安心な農産物の市民への安定的な供給を行うため、就農相談窓口の運営や担い手育成研修の開催、就農施設の整備等により新規就農希望者の円滑な就農を支援するとともに、就農後の営農支援や6次産業化の促進により農業生産の安定化を図り、地域農業を支える担い手として育成した。

a 就農相談

広島市内への新規就農希望者の一元的な相談窓口となる「広島市就農相談窓口」を運営し、就農に関するビジョンの明確化や栽培技術の習得、就農地の紹介などの一連の支援を市と連携して行うことで、新規就農希望者の円滑な就農を支援した。また、就農に関心のある市民を対象とした休日等の体験講座を開催し、新規就農希望者の拡大を図った。

b 担い手育成研修

広島広域都市圏の連携市町のうち対象となる市町の研修生を受け入れ、県、JA等と連携して栽培技術や農業経営等に関する研修等を開催するとともに、就農後の営農を支援し、他産業並みの所得が確保できる“ひろしま活力農業”経営者や直売所などへの出荷を目指す生産販売農家など、多様な担い手を育成した。

【育成研修】

区分	育成人数	研修内容	就農地
“ひろしま活力農業”経営者	27期生 2人	就農予定地での農業経営の実践研修(1年)	広島市2人
	28期生 2人	栽培技術や農業経営に関する基礎研修(11か月)	広島市2人(予定)
生産販売農家育成コース	令和7年度生 7人	栽培、出荷・販売技術と経営に関する研修(1年)	広島市6人、安芸太田町1人
栽培技術基礎コース	令和7年度生 10人	栽培、出荷・販売技術に関する研修(1年)	広島市8人、廿日市市1人(予定)、安芸高田市1人

【就農後の営農支援】

区 分	対象者数	支援内容
“ひろしま活力農業” 経営者	1～27期生 48人	果菜類等の栽培技術の指導・情報提供 16人
「スローライフで夢づくり」新規就農者	1～18期生 111人	営農支援講習会の開催 12回 延べ140人参加
ふるさと帰農者	1～17期生 184人	
“チャレンジ女性” 農業者	1～13期生 60人	
生産販売農家育成コース	令和5～6年度生 21人	
栽培技術基礎コース	令和5～6年度生 14人	

c 就農施設の整備及び貸付

“ひろしま活力農業” 経営者育成研修における実地研修施設及び研修修了後の就農施設とするため、パイプハウス等の施設を整備した。また、令和6年度に整備した就農施設を“ひろしま活力農業” 経営者に対し貸し付けた。

【就農施設整備】

区 分	箇所数	1か所当たり整備内容	備 考
パイプハウス等	2か所	パイプハウス 3,000㎡、調整棟 1棟、かん水施設その他	令和7年度整備

【就農施設貸付】

区 分	箇所数	整備年度
パイプハウス等	2か所	令和6年度

d 6次産業化の促進

生産者グループ等を対象とした農産物加工や新商品開発等に関する講習会の開催などにより、担い手の生産意欲を高めた。

区 分	内 容
講習会の開催	食品衛生講習会、食品表示講習会
専門講師の派遣	小麦の加工商品の開発検討（佐伯区）1回

(4) 畜産振興 ＜決算額：8,950千円＞

市民へ市内産畜産物を安定的に供給するため、市内における畜産業の産地育成を推進するとともに、家畜の疾病予防や改良・増殖、畜産物の品質向上に取り組み、畜産農家の経営の安定化を支援した。

a 産地育成

佐伯区湯来町における酪農産地の維持発展に向け、生産性の向上やブランド力の強化に関する取組を支援した。

また、新たな和牛産地の形成を図るため、畜産関係団体等と連携した市内産和牛のブランド化・農家の組織化等の支援を実施した。

区 分	件 数	内 容
研修会の開催	4件	管内で所有する繁殖雌牛のゲノム評価を用いた一般社団法人家畜改良事業団の新規種雄牛の交配の検討について 衛生対策について ていびょう 蹄病について 畜産クラスター事業改正のポイントと酪農家の対応について

b 家畜診療等

飼養技術に関する巡回指導及び疾病の発生予防と早期発見、治療等の家畜診療等を実施し、家畜の損耗防止と畜産物の品質向上を図った。

区 分	対 象	内 容
家畜診療等	畜産農家 17経営体	巡回指導 畜舎の衛生保持等の飼養環境の改善、適切な飼料給与、排泄物の適正処理、畜産物の増産や品質向上に関する技術指導 1,319件
		家畜診療等 疾病の発生予防と早期発見、治療 839件 無血去勢・除角 32件

c 家畜の改良・増殖

人工授精及び受精卵移植による家畜の改良・増殖を計画的に実施し、畜産物の品質の向上と生産コストの低減を図った。あわせて乳牛での和牛子牛増殖を推進し、高付加価値型酪農による収益性の向上を図った。

【人工授精】

区 分	件 数
人工授精	127件

【体内受精卵採取】

区 分	件 数	採卵個数	正常卵数
体内受精卵採取	6件	44個	36個

【体外受精卵作成】

区 分	件 数	作成卵数
体外受精卵作成	7件	60個

【受精卵移植】

区 分	件 数(A)	受胎確認 件数(B)	受胎確認中 件数(C)	受胎率 B/(A-C)
乳牛に移植	19件	6件	0件	31.6%
和牛に移植	11件	5件	0件	45.5%
計	30件	11件	0件	36.7%

(ウ) 広島市農業経営改善支援センターの運営 ＜決算額：205千円＞

認定農業者等の農業経営の安定化を図るため、広島市農業経営改善支援センターの運営を行い、経営改善に関する支援等を実施した。

a 経営改善に関する支援

農業経営改善計画等の計画作成の支援や経営改善に関する研修会の開催等により認定農業者等の経営改善を支援した。

区 分	対 象	内 容
計画作成支援	認定農業者 121経営体	農業経営改善計画 30件(新規認定 11件、再認定 19件)
	認定新規就農者 12経営体	青年等就農計画 2件(新規認定 2件)
研修会の開催等	認定農業者等 133経営体	スマート農業ハウス(センター及び現地)見学会開催 1回 農業雇用管理研修会開催 1回 東京における青果物の動向に関する研修会開催 1回 先進的な栽培技術等の情報発信 3回

※認定農業者等の経営体数は令和8年3月末現在

b 広島市認定農業者協議会の運営支援

認定農業者等の所得の向上と連携強化を目的とした広島市認定農業者協議会の運営を支援した。

総会の開催 1回

ウ 農業への理解の促進 ＜決算額：54,640千円＞

(ア) “ひろしまそだち”地産地消推進 ＜決算額：7,502千円＞

「市内産、新鮮、安心」な“ひろしまそだち”製品の消費拡大を図るため、イベント等でのPR活動や各種体験会の開催などを通じて“ひろしまそだち”の魅力と地産地消の重要性に関する市民の理解を促進し、“ひろしまそだち”製品の地産地消を推進した。

a “ひろしまそだち”のPR

イベント等でのPR活動や各種媒体を活用した情報発信により、“ひろしまそだち”に関する市民の認知度の向上に取り組んだ。

区 分	内 容
イベント等でのPR	ひろしまフードフェスティバルでの产品介绍、料理の提供など 湯来フェスでの牛乳、牛串焼の販売 マツダスタジアムでの試食等 6件 产品介绍用POPの作成 毎月1回
情報発信	情報紙“ひろしまそだち”だよりの発行 1回 SNSやホームページでのレシピ動画等の配信など 24回

b 体験会等の開催

市民が食の大切さや農業・農村の重要性を考える機会とするため、生産地の状況や野菜の栽培・おいしい食べ方が手軽に学べる体験会等を開催した。

区 分		内 容
体験会	地産地消ツアー	生産者による現地案内と栽培方法・おいしい食べ方の紹介等 5回 延べ97人参加
	エダマメの食農体験	エダマメの定植や収穫、調理体験 2回 延べ24人参加
	シュンギクの食農体験	シュンギクの定植や収穫、調理体験 2回 延べ23人参加
講習会	畜産教室	和牛繁殖農家での給餌体験 2回 延べ30人参加

c ボランティアの育成・活動支援

“ひろしまそだち”に関する市民の理解を効果的に促進するため、PR活動などに携わるボランティアを育成し、その活動を支援した。

【育成研修】

区 分	受講人数	研修内容
食農コーディネーター	12期生	2年目研修（全2年間）
	6人	食農体験、食農イベントの企画実施など 9回

【活動支援】

区 分	対象者数	支援内容
食農コーディネーター	1～11期生	PR活動で使用する野菜の提供 11回
	55人	フォローアップ研修の開催 1回 6人参加
“ひろしまそだち”野菜アドバイザー	1～12期生 78人	PR活動で使用する野菜の提供 1回 産地見学会の開催 2回 延べ19人参加

※ 「食農コーディネーター」とは、市民を対象とした食農体験等の企画・運営に携わるボランティアで、「“ひろしまそだち”野菜アドバイザー」とは、料理教室やイベントなどで“ひろしまそだち”製品の普及啓発に携わるボランティアである。

d 「“ひろしまそだち”地産地消協力店」の活動支援

“ひろしまそだち”製品を取り扱う小売店・飲食店等を「“ひろしまそだち”地産地消協力店」として登録し、これらの店舗が行う“ひろしまそだち”のPR活動を支援した。

区 分	件 数
パネルやグッズの貸し出し	10件

e 「ひろしま朝市」の開催支援

市民と生産者が交流する貴重な場である「ひろしま朝市」の魅力を向上させるため、ひろしま朝市実行委員会の企画・運営を支援した。

ひろしま朝市の開催状況

開催回数	延べ出店数	販売額
47回	571店	16,260千円

※令和8年2月15日に開催1000回記念イベントを実施した。

f “ひろしまそだち”地産地消推進協議会の運営

生産者、流通業者、消費者及び行政機関等の関係団体で構成する“ひろしまそだち”地産地消推進協議会の運営を行い、“ひろしまそだち”の地産地消を効果的に推進した。

推進協議会の開催 1回

(4) 農業体験の促進 <決算額：47,138千円>

農業への市民の理解を促進するため、自然にふれあいながら各種体験ができる場を市民に提供した。

a 花みどり公園<決算額：25,626千円>

自然にふれあいながら花木や草花、園芸に関する市民の知識を深めるため、四季を通じて花木等の栽培展示や、花づくり等の各種講座を開催するとともに、花木等に関心の高い市民をボランティアとして育成し、魅力的な公園運営を推進した。

【花木や草花の栽培展示】

約170品種、5,500本のシャクナゲなど

【イベント等の開催】

区 分	内 容
春のシャクナゲ ふれあい祭り	シャクナゲの展示、ボランティアによる公園案内（4月10日～4月29日）
はなづくり講座	季節の草花の寄せ植えなど 11回 延べ164人参加
みどりづくり講座	庭木や果樹の剪定や手入れ 6回 延べ59人参加
シャクナゲ講座	シャクナゲ栽培の基礎 4回 延べ38人参加
体験教室	果樹の収穫とジャムづくり体験、ハンドメイド体験 6回 延べ138人参加

【市民ボランティアの育成】

花みどり公園内の施設の維持管理及びイベントや講習会等の企画運営等をサポートするボランティア（ファンクラブ）を育成した。

登録者数 19人（令和8年3月末現在）

活動内容 植替え・除草や剪定などの園内管理など 延べ737人参加

b ひろしま市民の里@安佐 <決算額：5,281千円>

市民の「食」と「農」や自然環境保全の大切さに関する理解を促進するとともに、交流によるにぎわいを創出するため、市民や地域団体等が主体となって企画運営する野菜づくりや里山づくりなどの農林業体験の場を提供した。

【ひろしま市民の里@安佐運営協議会の運営】

運営協議会の開催 1回

【農林業体験等の開催】

区 分	内 容
農林業体験	野菜作り体験、ハーブ講座、石積みの修復など29回 延べ357人参加
自然観察会	動植物の観察など8回 延べ164人参加

【施設整備】

区 分	内 容
景観等整備	ブッポウソウの巣箱管理 6か所、石積みの修復
遊歩道の整備	横断溝の設置、枯損木の伐採
竹林整備	繁茂竹林の整理伐 2,600㎡
自然環境調査	自然環境の現況調査

c 広島市市民農園 <決算額：13,613千円>

市民の農業及び農村に関する理解を促進するとともに、健康的でゆとりある市民生活の確保を図り、併せて農村地域の振興に資するため、手軽に農作物の栽培体験ができる農園を管理運営するとともに、都市農村交流会等のイベントを開催した。

【管理運営】

区 分	内 容
入退園事務	利用者募集、使用許可、利用料金の徴収など
地元管理組織の支援	運営委員会等を対象とした研修 2回

【都市農村交流会等の開催】

区 分	内 容
見張市民農園	こんにゃく作りや収穫祭、栽培講習会など 7回 延べ162人参加
三田市民農園	ドレッシング作りや収穫祭、栽培講習会など 9回 延べ284人参加
三国市民農園	収穫祭と栽培講習会 3回 延べ37人参加

広島市市民農園の利用状況 (令和8年3月末現在)

区 分	貸付区画数	入園区画数	入園率
見張市民農園	178区画	83区画	46.6%
三田市民農園	112区画	98区画	87.5%
三国市民農園	137区画	118区画	86.1%
計	427区画	299区画	70.0%

※入園区画数には食農区画の利用を含む。

d 広島市市民菜園及び広島市市民体験農園 <決算額：2,618千円>

農業への市民参加を促進するため、農家が遊休農地等を活用して開設した菜園等の管理運営を行うとともに、菜園利用者等を対象とした栽培講習会を開催した。

【管理運営】

区 分	内 容
入退園事務	利用者募集、貸付契約事務の補助など
施設の維持管理	空き区画の保安全管理、簡易な設備の修繕など(市民菜園に限る。)

【栽培講習会等の開催】

区 分	内 容
栽培講習会	春夏野菜や秋冬野菜の栽培管理に関する講習会 8回 延べ174人参加
ほ場見学会	農業振興センターほ場の見学 1回 11人参加

広島市市民菜園及び広島市市民体験農園の利用状況
(令和8年3月末現在)

区 分	貸付区画数	入園区画数	入園率
市民菜園	2,030区画	1,886区画	92.9%
市民体験農園	60区画	60区画	100%

※市民体験農園には区画の貸付以外に野菜づくりの共同体験を実施
利用状況：60組の募集に対し52組利用（利用率86.7%）

(2) 林業の振興（公益目的事業2） ＜決算額：81,024,960円＞

ア 森林の保全・整備 ＜決算額：77,158千円＞

森林整備の推進 ＜決算額：77,158千円＞

森林の持つ水源のかん養や土砂災害の防止、二酸化炭素の吸収などの公益的機能を将来にわたって維持・増進するため、広島市市有林等の適正な森林整備等を推進し、健全な森林を育成した。

(ア) 市有林等の整備

広島市市有林及び広島市分収林について、「森林経営計画」等に基づき計画的な森林整備を実施した。

区 分	整備内容
広島市市有林	利用間伐 10.27ha、作業道開設 1,168m、作業道維持補修1,800m、境界データ変換 2地区
広島市分収林	枝打ち・保育間伐 46.19ha、境界データ変換 1地区

(イ) 太田川源流の森整備

広島市水道局が所有する廿日市市吉和の太田川源流の森について、「太田川源流の森整備基本プラン」に基づき計画的な森林整備等を実施した。

区 分	整備内容
太田川源流の森	森林保育：下刈 2.48ha 啓発活動関連の整備：作業道等刈払 1.93ha、下刈 0.90ha 管理歩道等の維持補修

(ウ) 適正な森林管理の促進

森林所有者自らが管理できない森林について、「広島市の森林経営管理推進事業の実施方針」に基づき、意欲と能力のある林業経営者による適切な林業経営に誘導するため、森林の所有者や森林境界等に関する調査を実施した。

調査地区		対象面積	内容
安佐南区沼田町	阿戸地区55林班	50ha	森林境界の明確化、地元説明会開催、森林現況調査
	阿戸地区56林班	34ha	アンケート調査
安佐北区白木町	井原地区3林班	46ha	森林整備同意取得
安佐北区安佐町	鈴張地区54林班ほか29	232ha	森林所有者調査
佐伯区湯来町	多田地区88林班ほか3	116ha	アンケート調査、地元説明会開催、森林現況調査

イ 担い手の育成・支援 <決算額：3,595千円>

新たな担い手の育成 <決算額：3,595千円>

市民による適切な森林整備を促進するため、施業技術に関する林業研修等の開催により、森林整備に携わる人材を育成した。

(ア) 半林半X移住者支援

中山間地域への移住者を、自ら森林を育て、管理し、林業経営を行う自伐林家として育成するため、森林・林業についての知識や技術習得等に関する林業研修を開催した。

区 分	受講人数	研修内容	備 考
半林半X移住者	3期生 1人	2年目研修（全3年間） 上級研修1年目研修	安佐南区沼田町 戸山地区に移住

(イ) 自伐林業担い手支援

森林所有者や地域住民等が自ら行う森林整備を促進するため、安全な間伐作業や未利用材の搬出作業等の技術講習会を開催した。

区 分	内 容
ロープウインチによる 搬出講習会	立木の伐採及びロープウインチを用いた間伐材の集積・搬出の実習 (2日間) 1回 2人受講
作業道開設講習会	バックホウを用いた作業道の開設、立木の伐採及び間伐材の集積の実習 (2日間) 1回 6人受講
間伐講習会	伐倒方向、かかり木処理、造材方法等の実習 1回 7人受講
林業用機械取扱講習会	チェーンソーの分解点検、目立て、ロープワーク等の実習 1回 7人受講

チェーンソー講習会	伐木等の業務に係る特別教育（2日間）1回 19人受講
刈払機講習会	刈払機取扱者作業安全衛生教育 1回 14人受講
スマート林業機械 実演会	フェラーバンチャ実演会 1回 26人参加 高所枝払い機実演会 1回 23人参加 ドローン実演会（座学） 1回 20人参加 ドローン実演会（実技） 1回 22人参加 スマート林業意見交換会 1回 27人参加

ウ 林業への理解の促進 ＜決算額：272千円＞

市民参加の森林づくりの推進 ＜決算額：272千円＞

森林・林業に関する市民の理解を促進するため、森林づくりに関する指導者の育成と市民参加の森林づくり事業を市や森林組合等と連携して推進した。

(ア) 広島市里山整備士養成

市民ボランティアや地域住民等による健全な里山再生活動を促進するため、指導者となる広島市里山整備士の活動を支援した。

区 分	対象者数	支援内容
広島市里山整備士	1～11期生 30人	森林整備活動団体等(2団体)とのマッチング 8回 延べ42人派遣 フォローアップ研修の開催 3回 広島市里山整備士会総会の開催 1回

(イ) 市民参加の森林づくり事業

市民が森林づくり活動に自発的に参加する動機付けと気軽に参加できる緑とのふれあいの場を通じて、森林・林業に関する市民の理解を促進するため、市民参加の森林づくり実行委員会が行うボランティアの育成等の取組の企画・運営を支援した。

【育成講座】

区 分	受講生	内 容
もりメイト	30期生、30人	間伐や植林の実習など 9回

※「もりメイト」とは、市民による森林づくり活動の先導的役割を担うボランティアである。

【その他の取組】

区 分	内 容
女性のための森林づくり入門 体験講座の開催	森の健康診断や竹林の整備、自然観察など 2回 15人参加
森林整備活動用具の貸出し	森林整備活動を行う11団体への用具の貸出し 11回

ひろしま「森の市」の開催	森林ボランティア団体の活動紹介や森で活動する人々のフォトコンテスト、林業体験、木製品・森の産物の展示販売など 開催日：11月3日 場所：広島市森林公園(入園者数3,037人) 参加団体 7団体
市民参加の森林づくり実行委員会の運営	総会等の開催 2回

(3) 水産業の振興（公益目的事業3） ＜決算額：56,360,066円＞

ア 調査及び試験研究 ＜決算額：4,601千円＞

(7) 増殖・養殖に関する調査 ＜決算額：1,241千円＞

養殖等に関する指導に必要な情報を把握するため、カキ稚貝の付着状況、ワカメの生育状況及びアサリ稚貝の分布状況等の調査を実施した。

a カキ養殖に関する調査

区 分		調査期間	地点数等	調査回数	内 容
カキ採苗調査		6月～8月	(定点) 15地点 (臨時点) 3地点	幼生調査 48回 種見調査 46回	カキ幼生の分布状況やカキ稚貝の付着状況の調査、カキ安定採苗に係る調査研究（国及び広島県、漁業団体、広島市と共同実施）
害 敵 生 物 調 査	ムラサキガイ	4月～6月、 1月～3月	9地点	幼生調査 25回 付着調査 20回	カキの成育不良の原因となる害敵生物の付着状況等の調査
	稚ガキ、 フジツボ	9月	4地点	付着調査 5回	
	カンザシコカイ類	9月～11月	2地点	付着調査 13回	
抑制棚調査		通年	市内経営 体等	10回	抑制棚におけるカキ稚貝の管理方法等を把握するための調査
出荷サイズ調査		4月～5月、 10月～3月	9経営体	72件	カキの成育状況及び出荷動向等を把握するための調査
養殖筏の耐久性調査		通年	弁天島 地先	12回	環境に配慮した高耐久性資材で作成した養殖筏の導入を検討するための調査（漁業団体と共同実施）

b ワカメ養殖に関する調査

区 分	時 期	地点数	調査回数	内 容
ワカメ	11月～2月	4地点	4回	養殖海域の環境、生育及び食害状況等の調査

c アサリ漁業に関する調査

漁獲量が減少しているアサリ資源を増殖するため、天然種苗の活用等を検討するための調査を実施した。

区 分	地点数	調査回数	内 容
稚貝分布状況等調査	3地点	3回	天然種苗を確保するための稚貝の分布状況等の調査 各調査地点の稚貝(殻長2mm以上)の平均生息密度は、岡の下川で前年度比約4割減、八幡川で約1割減、本川で約9割減となった。

(イ) 漁場環境に関する調査 <決算額：1, 228千円>

カキ等の成育に影響を及ぼす漁場環境を把握するため、広島湾における水質等の調査を実施した。

広島湾漁場環境調査

区 分	地点数	調査回数	内 容
水質調査	(定点) 11地点 (臨時点) 3地点	69回	広島湾北部海域及び大黒神島海域における水温やカキ幼生の餌となる微細な植物プランクトン等の調査 広島湾北部海域調査地点を拡充し、大黒神島海域の観測頻度を毎週1回から月1回に変更したため、調査回数は減少した。 (参考) 令和6年度実績 調査回数：112回 調査定点：広島湾北部海域8地点
底質調査	5地点	4回	広島湾北部海域における底質の全硫化物量等の調査(時期：6月 2回、8月、2月)
有害プランクトン調査等	3地点	13回	魚介類のへい死や二枚貝の毒化を引き起こす恐れがある有害プランクトンの調査及び貝毒等検査の検体の採取

(ウ) 水産資源に関する調査及び試験研究 <決算額：2,132千円>

海面及び内水面の資源増殖に関する指導の基礎資料とするため、放流魚等の漁獲実態を把握する調査や、新たな資源増殖に関する調査及び試験研究を実施した。

a 漁獲実態等調査

区 分	調査回数	内 容
漁獲実態調査	19回	漁獲された魚種及びその量、市場への出荷状況等の漁業者への聴き取り調査（対象：5経営体）
種苗放流効果調査		

b 資源増殖に関する調査及び試験研究

区 分	調査回数	内 容
マナマコ資源増殖試験	2回	漁獲量が減少しているマナマコ資源の増殖を図るために行う種苗の生産及び放流並びに放流効果の検証に関する調査 （令和6年度までは似島二階沖や金輪島南沖において10月までに放流を実施してきたが、放流効果が確認できなかったことから、令和7年度は場所を似島港（家下）等、時期を11月以降に変更し、計6万個体を放流した。今後、放流場所周辺において放流効果を確認するための調査を実施する。
シジミ資源状況等調査	2回	太田川再生方針に基づくシジミ資源を増やす取組の効果検証のための資源状況等の調査 （時期：5月、10月、地点数：19地点） （令和3年度から岩場への種苗放流を開始し、令和4～6年度にかけて放流手法の改善を行った。その結果、殻長10mm以下の稚貝は増加傾向を示し、放流種苗が新たに母貝として寄与している可能性が示唆された。 しかし、令和7年度は稚貝数が減少し、令和3年度に岩場への種苗放流開始前に実施した調査結果と同水準まで低下したことから、今後も慎重に資源状況等をモニタリングしていく必要がある。

イ 担い手の育成・支援 <決算額：51,068千円>

(ア) 漁業技術の普及指導等 <決算額：3,941千円>

生産量の増加や品質の向上等により、漁業収入の安定化を図るとともに、市民へ新鮮な魚介類を安定的に供給するため、漁業者に対し、調査及び試験研究の結果を基にした指導や販売支援を実施した。

a カキ等養殖に関する指導

カキ採苗調査や広島湾漁場環境調査等の結果を視覚的にも分かりやすい形式で取りまとめ、新たに立ち上げた広島市内漁業者専用ウェブページ等を通じて、広島市内のカキ及びワカメ養殖業者が所属する漁業団体をはじめ、関係者へ情報提供するとともに、各種調査結果を基に養殖指導や研修会を実施した。

カキの採苗は、6月上旬にカキ幼生が確認されたことから調査を開始した。その後、広島湾及び大黒神島海域ともに6月中旬からカキ稚貝の付着が始まった。統計開始以降最も早い6月下旬に梅雨が明けて水温が上昇したことから、付着のピークは例年より早く、広島湾内で7月上旬、大黒神島海域では7月中旬に確認された。この期間に市内のカキ養殖業者は必要量の種苗を確保することができた。

10月以降には、カキの大量へい死の発生に伴い、市内の全カキ養殖業者に聞き取りを実施して、被害実態について調査を行うとともにカキ養殖業者からの相談等に対応し、現地指導を行った。

また、県の要請により「広島県かきへい死に関する有識者会議」に参考人として出席し、生産現場の状況や海況等について説明を行った。

区 分	内 容
養殖指導	カキ養殖指導 1,920件
研修会の開催	カキ養殖研修会 4回 43人参加

b アサリ、その他漁業に関する指導

アサリ稚貝分布状況等調査や広島湾漁場環境調査の結果を取りまとめ、広島市内の漁業団体へ情報提供するとともに、各種調査及び試験研究の結果を基に技術指導を実施した。

アサリ漁業は、漁業団体が当センターの稚貝分布状況等調査結果を基に岡の下川及び八幡川の漁場で4～5月に魚類による食害を防止するために被覆網を設置して管理を続けることで、翌年3月には殻長30mmを超える多くのアサリが収穫された。

シジミ漁業では、平成25年に策定された太田川再生方針に基づくシジミ資源を増やす取組として漁業団体が行っている種苗放流について、指導や助言を行っている。令和6年度に引き続き、令和7年度も種苗を魚類による食害を受けにくい河川護岸の岩の隙間へ確実に放流するため、船上からでなく、干潮時に直接、手作業で隙間に投入するよう指導し、放流が行われた。

区 分	内 容
漁業指導	魚介類増養殖指導 1,154件

c アユ、カワウに関する取組支援

漁業団体が行うアユの由来判別及びカワウ被害対策等の資源増殖に関する取組を支援した。

区 分	内 容
天然アユ遡上数の増加に向け た取組支援	天然アユの遡上数を推定するための由来判別調査等の取組を支援した。

アユ食害対策に関する取組支援	太田川北大橋上流の中州及び高瀬堰上流右岸でアユを食害するカワウが飛来しやすい樹木に対して、防除対策のテープ張りの取組を支援した。
----------------	--

d 販売支援

漁業収入の安定化や地産地消の推進を図るため、漁業者が実施するひろしま朝市等での販売を支援した。

区 分	内 容
ひろしま朝市やイベントでの販売支援	開催情報をホームページに掲載するとともに、定期イベント開催時に出店者に対し、販売用POPや会場設営のレイアウトについて助言した。

(イ) つくり育てる漁業の推進 <決算額：４７，１２７千円>

海面及び内水面における水産資源を維持増大することにより、漁業収入の安定化を図るとともに、市民へ新鮮な魚介類を安定的に供給するため、種苗生産等を実施した。

a 種苗生産

次のとおり種苗を生産し、広島市に引き渡した。

種 類	計画数量	生産結果	大きさ等
アユ	56万尾	91.2万尾	0.5g以上
マコガレイ	12万尾	15.7万尾※ ¹	30mm以上
アイナメ	1万尾	1.3万尾※ ²	60mm以上
ガザミ	20万尾	26.0万尾	稚ガニ3令以上
ワカメ	8,000m(種糸)	8,000m(種糸)	幼芽3mm以上

※¹ 令和6年度に生産を開始し、マコガレイ種苗大型化に向けた生産技術開発試験を実施して令和7年度に広島市に引き渡した40mm以上の種苗である。令和7年度に生産を開始した種苗については、令和8年5月に広島市に引き渡し予定である。

※² 令和6年度に生産を開始し、令和7年度に広島市に引き渡した種苗である。

b マコガレイ種苗大型化に向けた生産技術開発試験

マコガレイ種苗の放流効果を高めるため、種苗を30mm以上から40mm以上まで大きくする種苗生産試験を実施した。

4月中旬から給餌方法や選別方法等を試行しながら試験を実施し、5月上旬から下旬にかけて40mm以上の種苗15万7,550尾を広島市に引き渡した。

c マダコ種苗生産技術開発試験

マダコの種苗生産に必要な親ダコ、受精卵及び種苗管理技術並びに餌料管理技術の開発試験を実施した。

4月下旬から親ダコが産卵し、5月下旬から受精卵がふ化して多くのマダコ幼生を確保した。マダコ幼生にカニ類のゾエア幼生を給餌しながら管理を続けたが、へい死が続き、稚ダコまで成育したのは約100個体であった。

d 種苗放流指導

漁業関係者を対象に、種苗放流、資源管理及び栽培漁業技術等の指導や研修会を実施した。

区 分	内 容
種苗放流指導	種苗放流指導 88件
研修会の開催	ナマコ研修会 1回 15人参加

e 水産振興センターの維持管理

施設の機能を良好に保つため、施設内の清掃、警備及び設備等の保守点検等を実施した。

ウ 水産業への理解の促進 <決算額：691千円>

学習会の開催等

市民の水産業への理解の促進を図るため、関係団体の協力を得ながら、学習会等を実施した。

(ア) 体験学習会

区 分	内 容
海辺の教室	水産業や生物に関する体験学習会 10回 延べ156組363人参加 テーマ：広島といえば“かき養殖”、干潟に暮らすいきもの達、つくり育てる漁業、チリメンモンスターを探せ、清流の女王～あゆ～、海そうはSDGs、かまぼこ作りに挑戦、魚をさばいてみよう
広島市アサリ学習会	アサリに関する体験学習（漁業団体と共同実施）1回 20組40人参加
海と漁業の体験スクール	干潟の生物観察 2回 281人参加 種苗の放流体験 1回 125人参加
広島かき子ども体験隊～見る・知る・味知る～	カキ養殖作業の体験学習会（漁業団体と共同実施）1回 8組16人参加 2回の開催を計画していたが、カキの大量へい死の影響により良好な養殖カキが用意できなかったことから回数と時期を改め、生産が回復した3月に1回実施した。

(イ) 水産関係イベントの支援

漁業団体が開催した井ロワカメオーナー制度等の水産関係イベントに協力し、市民の「広島市の漁業」や「つくり育てる漁業」への理解の促進や魚食普及を図った。

区 分	内 容
水産関係イベントの支援	井ロワカメオーナー制度の実施に際し、効果的な企画等について助言した。ひろしまフードフェスティバルの出店者に対し、販売用POPや会場設営のレイアウトについて助言した。 広島湾とれたて海の幸フェアで漁業団体が開催したカキ打ち体験コーナーで体験者へ説明を行った。

(ウ) 水産業に関する情報の提供

区 分	内 容
施設の一般公開	資料展示室の一般公開、カキ養殖など広島市の水産業の説明及び種苗生産施設の案内等 来館者数 延べ6,565人・団体数 延べ193団体
情報の提供	ホームページ及びSNS等を活用した水産業に関する情報の提供並びにカキ養殖等の漁業に関する研修会及びワカメ養殖等の体験学習会等への講師の派遣 ホームページアクセス件数 13,595件、水産知識に係る情報提供 32件 講師派遣 4回 291人受講

(4) 収益事業 <決算額：210,402円>

自動販売機設置事業

施設利用者の利便性の向上を図るため、飲料水自動販売機を設置した。

設置場所及び数量
農業振興センター 1台、花みどり公園 2台、見張市民農園 1台、三田市民農園 1台

7 運営体制の充実を図るための取組

(1) 公益法人内部における規範の徹底

「職員倫理規程」、「ハラスメントの防止に関する規程」を運用し、コンプライアンスの遵守に努めているほか、「個人情報保護規程」、「ソーシャルメディア運用ポリシー」の運用により、職員、講習受講者などの多くの個人情報を扱う組織としてのリスク管理に努めている。

(2) 法人運営における具体的取組

公益法人会計についての適切な対応を図るため、多くの公益法人を監査している監査団体の会計監査を受けている。

(3) 不祥事の予防及び対応

不適切な行為等を防ぐために、各種規程及び業務フロー等の見直しを行うとともに、職員への周知徹底を図っている。

8 無償使用貸借資産

事業を実施するに当たって、広島市から無償使用貸借している資産は次のとおりである。(令和8年3月31日現在)

(1) 建物及び土地

名 称	所 在 地	区分	現 在 高
広島市農業振興センター	広島市安佐北区深川八丁目30番12号	建物	事務室等 545.04㎡
ひろしま市民の里@安佐	広島市安佐北区安佐町久地及び毛木地区	土地	—

(2) 物品(取得価額又は評価価額が100万円以上の物品を記載)

車両7点(うち、乗用車4点、貨物車2点、トラクター1点)、組立式物置1点 合計8点

9 附属明細書

記載すべき事項はない。